

1-1

- 交通量:少ない(□)
- 歩 道:ない(△)
- 歩行性:落ち着いて歩ける(○)
- 緑 地:道路上はなし(△)生垣、庭木を眺められる(○)
- 緑 陰:乏しい(△)
- 特 記:落ち着いた歩行空間を確保(□)

1-2

- 交通量:少ない(□)
- 歩 道:ない(△)
- 歩行性:落ち着いて歩ける(○)
- 緑 地:道路上はなし(△)生垣、庭木を眺められる(○)
- 緑 陰:乏しい(△)
- 特 記:周辺の緑地が多く落ち着いた歩行空間を確保(□)

〈残堀川沿い〉

- 交通量:少ない(□)
- 歩 道:有無混在、基本的にない(□)
- 歩行性:落ち着いて歩ける(○)
- 緑 地:低木主体、高木の樹高、密度が低い(□)
- 緑 陰:乏しい(□)
- 特 記:落ち着いた歩行空間を確保できる(○)

〈青梅街道〉

- 交通量:多い(△)
- 歩 道:なし、路側帯のみ(△)
- 歩行性:落ち着いて歩けない(△)
- 緑 地:なし(△)
- 緑 陰:乏しい(△)
- 特 記:落ち着き歩行できない(△)

1-3

- 交通量:少ない(□)
- 歩 道:あり(○)
- 歩行性:落ち着いて歩ける(○)
- 緑 地:道路上植栽帯に、低木・高木の植栽(○)
- 緑 陰:道路植栽の高木あり、但し密度低い(□)
- 特 記:落ち着いた歩行空間を確保(□)

1-4

- 交通量:少ない(□)
- 歩 道:ない(△)
- 歩行性:落ち着いて歩ける(○)
- 緑 地:高木の並木(○)
- 緑 陰:充実している(○)
- 特 記:落ち着いた歩行空間を確保(□)
但し、通路が雑然としている

1-5

- 交通量:少ない(□)
- 歩 道:ない(△)
- 歩行性:落ち着いて歩ける(○)
- 緑 地:道路上はなし(△)生垣、庭木を眺められる(○)
- 緑 陰:乏しい(△)
- 特 記:落ち着いた歩行空間を確保(□)

〈評価凡例〉

- (△):課題多い [1~2点]
- (□):好ましい [3~4点]
- (○):非常に好ましい [5点]

図2.5.1(6) 現地踏査結果(殿ヶ谷周辺)

2.5.2 現地踏査から抽出される問題

回廊ルートの条件としては、利用者が車両通行に気をとられず安心・安全に落ち着いて歩ける上、緑地・緑陰が適度に分布していることが求められると考えます。これを満たすような具体的なルートとしては、町役場前から瑞穂ビューパークに至る歩道が挙げられます。

その他の道路では、歩行路に十分な緑地と緑陰を確保することは困難な状況にあります。また、街路に宅地が近接しているため歩道や緑地を新たに確保することは困難であると考えられます。しかし、静かな住宅地の街路と庭木・生垣が落ち着いた風情を醸し出している所も随所に見られます。

このため、現状の街路を利用することを基本とした場合、歩行者の安全性が特に課題となる箇所、新規の歩行路を確保すべきと考える改善ルートを抽出しました。その結果を、表 2.5.2(1)、図 2.5.2(1)～(2)に示します。

表 2.5.2(1) 改善ルート一覧

エリア	番号	目 的 内 容	長さ(m)	摘 要
殿ヶ谷	①-4	道路整備	140	
役場周辺	③-4	遊歩道整備	300	
	③A	遊歩道整備の場合	60	上記ルート変更の場合
狭山池緑地ほか カタクリ群生地周辺	④-3	歩道確保	250	
	④-4	歩道拡幅	370	
	④-5	遊歩道整備	30	
	④A	歩道拡幅	20	都道 166 号線
	④B	遊歩道整備	150	ルート変更の場合
	④C	遊歩道整備	400	ルート変更の場合
JR線沿い	⑤-2	遊歩道整備	450	
	⑤A	狭山池上流部	1 か所	拠点整備
	⑤B	遊歩道整備	300	
	⑤C	遊歩道整備	200	

※番号は、図 2.5.2(1)、図 2.5.2(2)に関連付けられます。

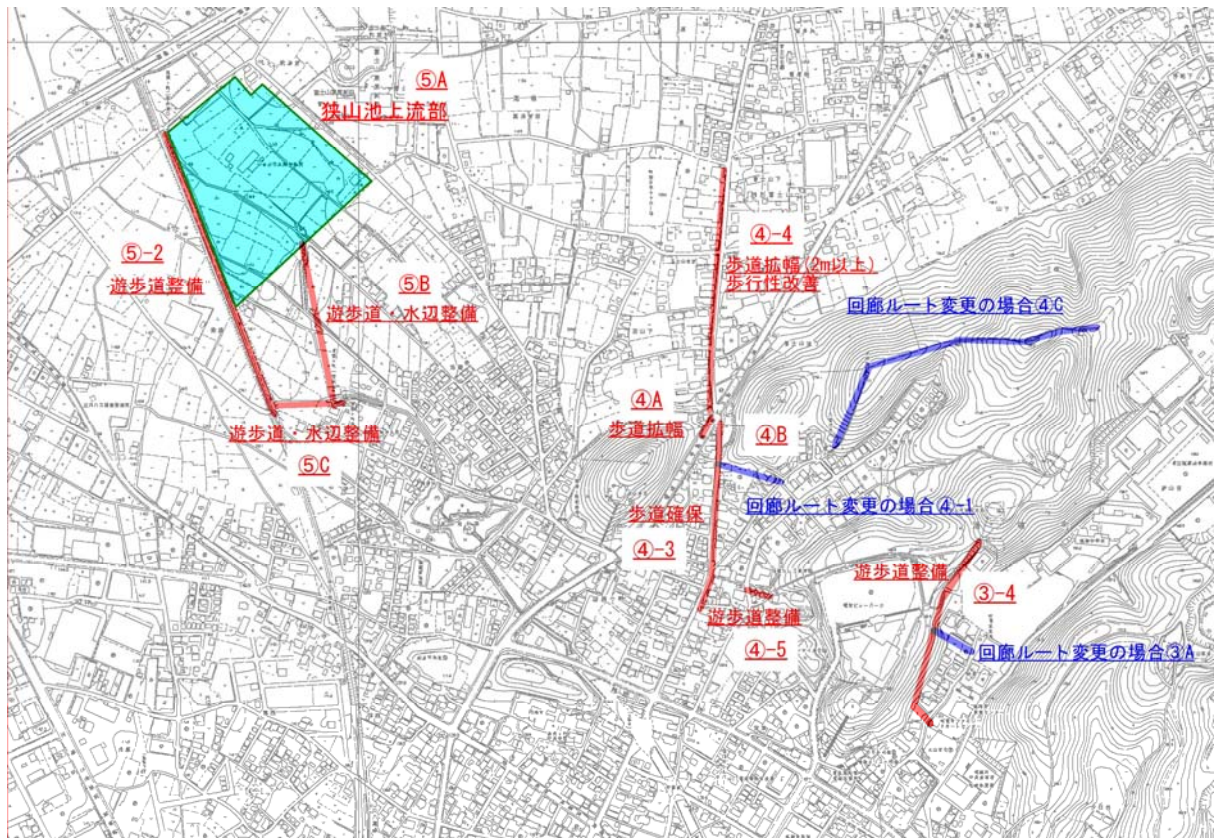


図 2.5.2(1) 改善が必要な回廊候補

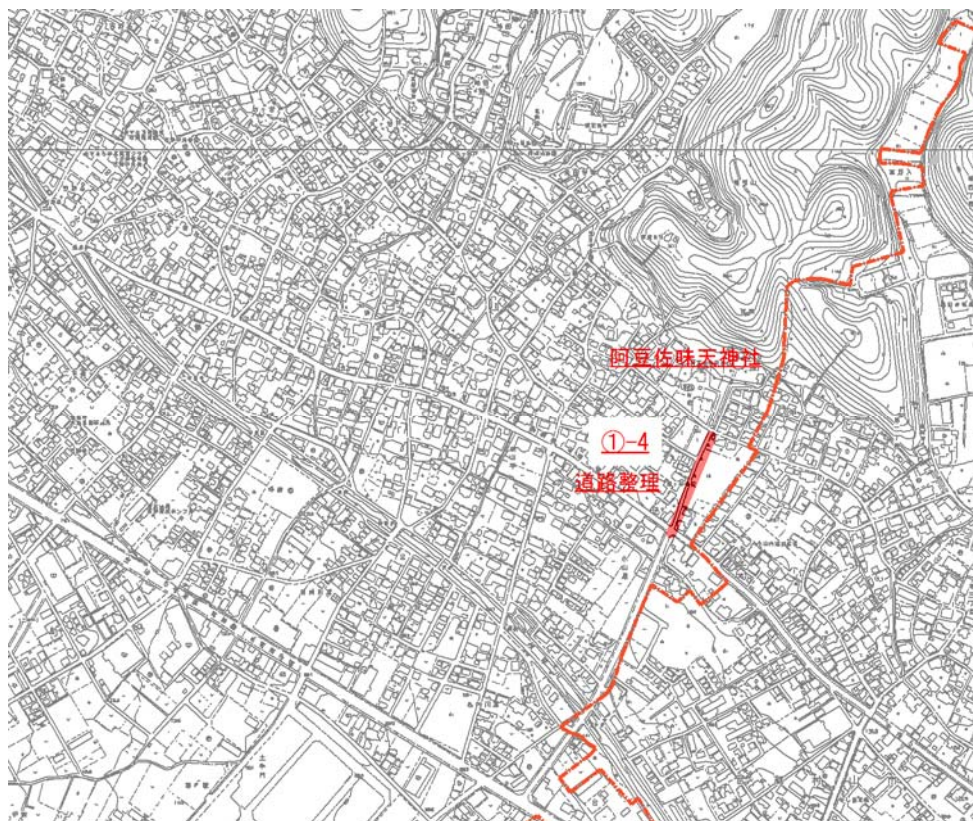


図 2.5.2(2) 改善が必要な回廊候補